

平成29年度医学部看護学科・医学系研究科看護学専攻自己点検評価書

項目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料	
<p>基準4 学生の受入</p> <p>4-1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。</p> <p>4-2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。</p>	<p>入学者選抜の改善に繋がった取組</p> <p>○平成29年度の看護学科入学者数は80名で定員の1.0倍（3年次編入学の定員10名を除く）で適切であった。看護学専攻の入学者数は5名で定員の0.6倍であった。</p> <p>○看護学科の平成30年度入試状況（受験倍率）は、社会人特別選抜（1.3倍）を除くすべての選抜で2倍を上回っていた。看護学専攻は、二次募集まで実施し、定員8名のところ、4名が受験し、欠格事項に照らし合わせた結果、4名が合格した。</p> <p>○医学教育IR室に入試選抜方法や教育方法の見直しを目的として分析を依頼しその結果を踏まえ30年度に向けて検討を開始した。</p> <p>○看護教育モデルコアカリキュラムをふまえ30年度申請に向けて新カリキュラムの骨格を作成した。</p> <p>・入学者受け入れ方針を看護学科HPへ掲載、入学者受け入れ方針と学力の3要素等と相関性および入試方法との相関性を、入学者選抜に関する要項・各入学試験募集要項への掲載し、受け入れ方法との関係を明示している。</p>	<p>資料1：入学定員の充足率</p> <p>資料2-1：平成30年度医学部看護学科・大学院医学系研究科看護学専攻入試選抜概況</p> <p>資料2-2：志願者倍率、受験倍率、入学者数の推移</p> <p>資料3：教学IR作業部会への分析依頼について</p> <p>資料4-1：教育課程と指定規則との対比表</p> <p>資料4-2：平成31年度カリキュラム科目一覧（ナンバリング・開講時期・単位・時間数）</p>	<p>医学部看護学科・医学系研究科看護学専攻の取り組み</p>
<p>基準5 教育内容及び方法</p> <p>5-2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること</p>	<p>単位の実質化を図るための取組</p> <p>○外国人留学生17名をTAとして医療英語Ⅲで模擬患者役として採用し両者にとって効果的な学習機会となった。</p>	<p>資料5：平成29年度計画番号38-3&lt;実施</p>	

<p>と。(学士課程)</p> <p>5-5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等(研究・論文指導を含む。)が整備されていること。(大学院課程)</p>	<p>○30年度新カリキュラム申請に向けて、教学企画室策定指針である3つの方針に基づきディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーとその水準について見直すとともに評価方法や時期についての検討を同時に開始した。</p> <p>○28年度より始まった国際的な視野を身につける第一歩として岐阜大学短期海外研修奨学金より1人あたり10万円を助成し、平成30年3月3日(土)～3月11日(日)、看護学科2年生14名を田島弥生准教授・佐野亜由美助教が引率しニュージーランドマヌカウ工科大学における短期研修を実施した。</p> <p>・看護師の卒業に必要な単位数や履修モデル、保健師、助産師、養護教諭課程の履修方法について、履修の手引きに示している。また、各科目の授業計画、学習方法、評価方法についてwebシラバスに明示するとともに、各授業の開始日に、説明している。</p>	<p>計画、結果、まとめ  &gt;  資料6.看護学科 評価時期と方法案</p> <p>資料7:ニュージーランド看護研修(岐阜大学国際交流年報2017より)</p>	
<p>基準6 学習成果</p> <p>6-1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。</p> <p>6-2 卒業(修了)後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。</p>	<p>学習成果の向上に繋がった取組</p> <p>○卒業生77名のうち73名が看護師・保健師・助産師・養護教諭として就職し、そのうち37名(50.7%)県内に就職している。3名が進学している。</p> <p>○平成29年度国家試験合格率は、看護師97.4%、助産師100%、保健師100%であった。</p> <p>○卒業時の意識調査より、卒業時に身についた力に関する6項目(5段階評価)について1～5項目において85.2～98.7%が(身についた、どちらかといえば身についた)としていたが、6.「国際的な視野と地域医療への貢献を視野に入れた看護を発展できる能力」については67.6%が身についたとしていた。</p> <p>○(前学期)講義科目の評価は昨年度と比較すると、①授業評価について②学生の自己評価は、上昇していた。②学生の自己評価のうち「意欲的な取り組み」は他と比較すると低水準である。演習科目、実習科目別の比較では、授業評価は全体的に4点台前半であるのに対して学生の自己評価は3.83～4.68に分布し、昨年とほぼ同じ傾向であった。</p> <p>○看護学専攻で平成28年度から導入した授業評価に回答した院生全員が「新しい知識や考え方を得ることが出来た」と回答し、「非常に出来た」と「かなり出来た」と回答していた院生は、共通科目で63%、専門科目で83%であった。研究能力向上の質問に、63%の院生が「非常に役立った」または「かなり</p>	<p>資料8:平成29年度進路一覧</p> <p>資料9:国家試験合格状況</p> <p>資料10:平成29年度4年生に対するアンケート調査結果</p> <p>資料11:岐阜大学医学部看護学科「学生による授業評価結果」(前学期)</p> <p>資料12:平成29年度「大学院生による授業評価」【共通科目】【専門科目】集計</p>	

	<p>役立った」と回答していた。</p> <p>○年度末に実施したアンケートでは、55%の院生が学んだことを職場に反映できしており、36%は「やや反映している」と回答していた。</p> <p>○院生の大多数が社会人ということに配慮して、夕刻に時間割を作成している。院生の研究指導・論文指導については、院生が仕事と両立できるよう、柔軟に対応している。</p> <p>○平成 29 年度から、ディプロマ・ポリシー（専門的能力）の達成状況を把握するために、院生の自己評価（年 2 回）と指導教員の指導院生評価（年 1 回）を開始した。能力が伸びていると自己評価した院生は、研究能力（23～36%）、教育能力（27%）、マネジメント能力（23%）、統合する力（32～41%）であった。</p>	<p>結果</p> <p>資料 13：平成 29 年度 大学院アンケート 集計結果</p> <p>資料 14：平成 29 年度 （前・後）大学院教育 における到達度 に関わる自己評価 分析</p>	
<p>基準 8 教育の内部質保証システム</p> <p>8-1 【重点評価項目】教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能していること。</p> <p>8-2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。</p>	<p>教育の質の改善に繋がる取組</p> <p>○授業評価項目の一部修正（学生の満足度を追加）、授業評価等について教員会議にて報告している。また、「FD 委員会たより」として委員会の活動内容について看護学科ホームページに掲載した。</p> <p>○教員によるリフレクションペーパーの様式について、従来の様式を改善し、課題や取り組みが明確になり記載しやすいよう改善した。</p> <p>○学生による授業評価で高評価の教員の公開授業を行い各教員のブラッシュアップにつなげた。「習得した知識を活用できる工夫がされていた」「内容が焦点化されていた」などの評価がされていた。</p> <p>○看護職の離職は大きな課題である。実習施設の指導者及び教員を対象に『新人看護職の職場適応と離職防止 -看護の仕事を楽しむ“ゴキゲン力”をつけよう-』について講演会を実施し、実習指導者と教員の共通認識を図った。講演内容にあった「職場の風通しを良くする」「水平なリーダーシップ」について共感的な感想であった。</p>	<p>資料 15：岐阜大学医学部看護学科 ホームページ FD 委員会 便り ③</p> <p>資料 16：改訂版リフレクションペーパー</p> <p>資料 17：岐阜大学医学部看護学科 F D 委員会企画「公開授業」アンケート結果</p> <p>資料 18：平成 29 年度 岐阜大学医学部看護学科・看護学専攻 FD 委員会企画研修会『新人看護職の職場適応と離職防止 -看護の仕事を楽しむ“ゴキゲン力”を</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係者（学生、卒業生（修了生）、卒業生（修了生）の主な雇用者等）からの教育の内部質保証についての意見を聴取する仕組みの構築状況については、検討する予定である。</li> <li>・自己点検・評価の結果を踏まえ、指摘事項への対応を検討、立案、提案する組織の設置状況としては看護学科運営委員会が自己点検・評価の結果を確認までしている。対応を検討、立案、提案する組織の設置について今後検討する。</li> <li>・自己点検・評価の結果を踏まえ、指摘事項に対する対応計画が策定・その取り組みが成果をあげていること、または取り組みが進捗されていることの確認については、今後検討する。</li> </ul>	<p>つけよう-』アンケート結果</p>	
--	--	----------------------	--

# 平成29年度 認証評価対応にかかる自己点検評価(医学部看護学科)

	分類	基準	平成28年度以前から継続	平成29年度の特徴および効果【期待できる効果】
全体	入学以前〜卒業後のキャリア教育	4・6・8	1.平成28年度～社会貢献活動各プログラムの発足 ①卒業生支援 P G 【在校生と卒業生の交流】 ②地域住民への貢献 P G 【健康教育】 ③専門職を磨く P G 【看護師への教育・研究支援】 ④高大連携 P G 【高校生へのキャリア教育】	1.社会貢献活動の整理と充実 ③専門職を磨く P G・・・⑤看護研究研修 P Gを新設 →研究支援を充実  2.具体的活動状況 ・看護フォーラム開催：看護学生と看護職・地域住民との交流（看護部協力） →在校生のキャリアパス作成の促進、附属病院との連携強化 ・在校生と卒業生の交流会開催 →卒業生の状況把握、在校生のモチベーション向上 ・地域住民の岐阜大学看護学科へのニーズ調査 →地域住民との交流・健康支援への期待を確認 ・研究指導回数・内容の充実、遠隔地での看護研究指導 →教育効果・ニーズの明確化 ・高校生への出前授業及び探究活動支援 →看護系大学への進学モチベーションの向上（高校生） →看護・看護職への理解の向上、進路指導への情報提供 ・看護職・教育職への教育研修「LGBTを理解する」講演会等 →看護者・教育者の資質の向上
		5	1.学習支援室・保健管理センターとの協働 2.助言教員制度による支援	1.関連部門と協働し該当する学生へ個別対応 →休学・退学・転部・実習等への適切な対応 2.障害に関する講演会「障害のある学生に対する合理的配慮をめぐる課題」→教員の共通認識強化 3.身体障害のある院生へのヒアリングおよび対応の検討 →H30年度以降：スロープ、手すりの設置検討
学部	研究力の向上 教育力の向上 教育の質保証	8	1.F D研修会 2.公開授業	1.ブラッシュアップ研修会（研究推進・社会連携機構協力） 「科研費説明会、研究計画書の作り方、書き方」・研究相談→教員の研究動機づけ、研究支援 2.離職防止に関する講演会（教員・看護管理職対象） 「離職防止のための看護基礎教育、新人教育、職場環境」 →現代に必要なリーダーシップ、風通しの良い職場環境、それに繋がる教育について共通認識
		6・8	1.学生による授業評価 2.教員によるリフレクション 3.卒業時のアンケート 4.カリキュラムの見直し、検討 5.教学 I R 分析	1.学生による授業評価に関するアナウンス方法の検討 →授業評価の意義を意識した学生からの情報 2.リフレクションペーパーの改善 →記載しやすい内容への変更、授業の課題および対策の明確化 3.ディプロマポリシーの到達度の評価時期、方法の検討開始 →教育効果の検証方法の検討 4.医学部看護学科の特長をふまえた新カリキュラムの検討 →国際性、倫理観を高める教育の充実 5.教学 I R 分析：入学時の成績・入試方法・入学後の成績(GPA)・岐阜大学医学附属病院における離職率との関連検討 →推薦入学者の成績および離職の低さの確認 H30以降入試改革への活用
大学院	教育の質保証	6・8	1.学生による授業評価（H28より開始） 2.ディプロマポリシーの達成度（学生自己評価・教員のコメント）調査票作成	1.授業評価：学生の自己評価と教員からのコメントを両者が共有 →教育方法の検討 2.ディプロマポリシーの達成度調査（2回/年）開始 →H30年度以降：教員によるリフレクションの検討材料の入手